

三島古戦場

周边地图



長野市観光振興課

【逆槐】 さかさえんじゆ



玄が本陣を構えた際、土塁の地固めに逆さに挿した槐がそのまま根付いて成長し

たものと伝えられる。旧八幡社の鬼門除けのご神木ともいわれる。



【首塚】くびづか

現在八幡社境内西北の隅に蓋がされている井戸がある。真夜中になると、井戸底から戦死者の怨霊の悲鳴が聞こえるという。

【執念の石】しゅうねんのいし
信玄の助けに入った武田軍

【古井戸】
ふるいど

【松籟と松】しゅうらいとまつ
八幡原の境内には現在でも
大小の松の木が立っている
松風の音が戦場音のごとく
聞こえる。これらの松はい
ずれも皆南西に傾いている
これは北国より来た越軍の
攻勢がはやく、また強かつ

家臣・原大隅守が謙信を取り逃がした悔しさに、かわらにあつたこの石を槍で突き通したといわれる穴がある。

永禄4年の第4次の合戦で
は多数の死傷者が出たとさ
れる。以降、古戦場周辺の
妻の中には、首を切られた
兵士の怨念がとりついて、
穂の最上部的節が折れ曲
がって下を向く妻穂が見ら
れるようになったといわれ
ている。

たためであるとか、南から来た甲軍に対する思慕の情の現れともいわれている。

決戦／地ニ立ツ

「川中島の戦い」とは、信濃北部で繰り広げられた越後・上杉謙信・甲斐・武田信玄、そして北信濃の人々を軸とした戦いの総称。通説では天文22年（1553）から永禄7年（1564）までの12年間とされる戦いが行われたといわれている。5度の戦いの中で、第4次にされる永禄4年9月10日の戦いは、千曲川と犀川にはさまれた川中島一帯で行われ、信玄・謙信の一騎討ちなど、多くの伝説を残した激戦であった。



5度にわたって繰り上げられた武田信玄と上杉謙信の川中島の戦いの中で、永禄4年（1561）9月10日の第4次の戦いの舞台になったのが八幡原。ここの戦いが最も激しく、武田方の副将 武田典勝信繁、山本勘助ら多くの将兵が戦死した。現在には公園を囲むように桜が植えられ、芝生公園や池などが整備。市民の憩いの場となっている。



川中島
古戦場
周辺

松代城跡（海津城）

永禄3年(1560)頃
武田信玄が北信濃支
の拠点として築いた城
昭和56年国史跡指定。

永禄4年の戦いで戦死した信玄の弟、武田信繁の墓がある。日本一の大きさを誇る高さ5.5mの閻魔大像が川中島に散った武田・上杉両軍6千余名を供養している。(境内には寺宝60余点を展示する川中島合戦記念館もある。)

※無料駐車場あり(〒026-2921-3335)

※拝観料200円



山本勘助の墓は、こゝより南の字高畑にあったが、千曲川による荒廢から、かつての広瀬の渡しに建つ旧信州柴阿弥陀堂境内に墓碑が建てられ、現在に至っている。

敵に討ち取られた山本勘助
(武田信繁との説もあり)の
首を奪い返し、胴体とをつ
なぎ合わせた場所と伝えら
れる橋。(OYAKI FARM
敷地内)



跡地付近で討ち死にしたといわれている。

いの際の上杉
津城を見下ろ

妻女山 **AR フォトフレーム**

永禄4年(1561)の第4次川中島の戦いの際の上杉軍の陣所。眼下には武田軍の拠点、海津城を見下ろし動きをにらんでいた。



妻女山からの展望

